

6.4 有識者ヒアリング結果

6. 動物・植物・生態系

事 項	要 点	備 考
<p>6.4 有識者ヒアリング結果</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>■生物・生態系については、現地調査に際して調査方法及び結果について有識者に確認を行った。 ■ダム事業による影響評価及び保全措置について、現在ヒアリングを実施中である。</p> </div> <p>(1)哺乳類</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：哺乳類 実施日：平成14年3月</p> <p>【コウモリ類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[REDACTED]においてコキクガシラコウモリの集団冬眠（1,000頭程度）箇所は、対象となる洞窟では、最大のものであることから、重要な箇所と考えられる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：哺乳類 実施日：平成18年8月17日</p> <p>【コウモリ類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辰巳ダム周辺で確認されている集団分布地は全国的にも貴重な場所である。 ・今後幼獣の飛翔が多くなりまだ確認されていない種が捕獲される可能性があることから、継続して調査を続けたほうが良い。 ・ここまで調査を行ってきたので、モニタリングまでしっかり行って欲しい。 <p>【コウモリ類の保全対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウモリの餌となる水生昆虫の生息環境を保全できるように工事を行って欲しい。 ・コウモリは坑口から出た後は周辺の林に沿って移動するが、周辺に林がないとフクロウなどに襲われ生息地を放棄する可能性がある。したがって、ダムサイト付近の盛土部の特に[REDACTED]の坑口付近からの移動経路の確保のために、施工後に植林を行うなどの配慮が必要である。 ・試験湛水時は冬眠期に当たるが、湛水時に水没しないエリアであっても水の流れによって冬眠場所の温度が低くなり生息できなくなる可能性があるため、冬眠前に坑口を塞いでコウモリを洞窟に入れないようにしたほうが良い。 ・坑口を塞いだ後にどこに移動したかを把握するためには、水没する洞窟に生息するコウモリの個体識別を出来る限り多く行う事が必要である。 ・代替地については、現在埋まってしまっている場所を掘って利用できるようにする事も方策の1つとして考えるべきである。 ・試験的に坑口を塞ぐ場合、[REDACTED]はコキクガシラコウモリのマーキングをもう少し行ったほうが良いので、[REDACTED]から行ったほうが良い。 ・洞窟を塞ぐ方法としては、坑口にコウモリが出入できるような空間を考慮した横方向の鉄柵を設け、夜間にコウモリが洞窟から出たことを確認して、シートなどで徐々に塞いでいく方法が考えられる。鉄柵は、地表付近を縦方向にして人間の出入が容易にできないようにし、またモニタリング時に洞窟に出入できるよう扉を設置する。 ・コウモリの移動場所については、今までの調査で行ってきた洞窟内の温度分布結果からある程度予測できるのではないかと。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：哺乳類 実施日：平成18年11月7日</p> <p>【哺乳類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね対象地における哺乳類相を網羅していると考えられる。 ・キクガシラコウモリは定住性が高い。 ・パッドディテクターによる確認は精度の問題があるので、カスミ網等による捕獲も併用した方がよい。 <p>【哺乳類への影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類への影響について・総合的には影響は少ないと考えられる。 ・森林性コウモリ類の行動圏を把握し、影響の度合いを推察することも検討する。 ・事業実施によるコウモリ類への影響を少なくするよう努める。 ・湛水によるコウモリ類の移動経路の影響も検討する必要がある。 ・新たに洞窟を創出することも検討する。 ・モニタリングは行った方がよい。 </div>	<p>注) 所属等は聞き取り当時</p>

6. 動物・植物・生態系

事 項	要 点	備 考
	<p>対象者：[REDACTED] 対象項目：哺乳類 実施日：平成 18 年 12 月 19 日</p> <p>【コウモリ類の生態について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生息環境についてはあまり知見がなく、意外な場所にいることもある。 ・湿度は 70%以上の環境を好むようである。 ・コキクガシラコウモリの繁殖場所は、天井が低く、外気温の影響を受け、暖かい場所で行うようである。また、冬眠は人などの進入がなく、11～12℃で安定している場所が好まれる。 <p>【コウモリ類の保全対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間工事については大きな影響はない。逆に灯火に昆虫が集まるので、餌の供給源となるのではないか。 ・配慮事項としては、特に繁殖期と冬眠期の騒音・振動に留意してほしい。 ・人工コウモリ洞はあまり事例がないため、保全措置としてはあまり好ましくない。 ・閉塞している洞窟などを利用し、入口を温度管理および人や他の動物の進入を防ぐよう閉塞し、入口付近に植栽すればコウモリ類が利用する可能性がある。最も可能性があるのは、[REDACTED]であり、次に調査横坑が挙げられる。 ・誘導については、うまく移動しなかった場合には、捕獲して強制的に移動場所へ放逐するという手段もある。 <p>【今後の調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間捕獲調査をあと数年続けると、調査地点で採餌する種が確定的となる（バッドディテクターを同時に使用、記録すればなおよい）。 ・生息環境調査としては、継続的な気温、湿度の計測（データロガーを使用するとよい）を行った方がよい。また、可能であれば、風向・風速（線香の煙などで現地で確認するだけでもよい）も実施した方がよい。 <p>(2) 鳥 類</p> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：鳥類 実施：「加賀 辰巳用水」（辰巳ダム関係文化財等調査団 昭和 58 年）</p> <p>【鳥類全般について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[REDACTED]では、ヒヨドリ、ホオジロ、トビ、ウグイス、キジバト、サシバが見られ、これらの主要な生息地は河辺林や溪谷斜面の草地などである。 ・ウグイス、サシバは、森林性の山地帯が主生息地帯である。 ・植生の変化は、直ちに生息場所を奪う結果となりうる。 ・犀川の環境に大なり小なり依存しているため、人為による無作為な改変は、野鳥に直接的な被害を加えることになる。 <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：鳥類 実施日：平成 14 年 9 月 26 日</p> <p>【希少猛禽類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[REDACTED]近くのハチクマの営巣を確認した。今年で 3 回確認していることから、このハチクマがこの[REDACTED]周辺の環境に好んでいるのではないか。 ・[REDACTED]のハチクマの営巣については、今年確認できなかったが、周辺で営巣している可能性があると考えられる。また、今後この営巣地を使用する可能性があると考えられる。 <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：鳥類 実施日：平成 13 年 9 月 5 日</p> <p>【ミゾゴイについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営巣地として、[REDACTED]において可能性があると考えられる。 ・これまでの調査から工事に関する是非は言えない。 ・4 年前の映像などから対象地域は、生息・営巣地として数回利用されている可能性が高い地域である。 ・生息環境（営巣・餌・天敵・寿命）について聞き、併せて、今後の調査についての方法について打合せを行った。 	

6. 動物・植物・生態系

事 項	要 点	備 考
	<div data-bbox="667 302 1751 405" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：鳥類 実施日：平成13年9月19日</p> </div> <p>【ミゾゴイについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地域内にて確認した古巣を見て頂いたが、全てミゾゴイの巣ではなかった。 ・営巣環境について指導を受けた。 ・併せて、照明・道路・騒音とミゾゴイの生息環境との関係について聞き取りを行った。配慮事項等について助言いただいた。 <div data-bbox="667 569 1751 672" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：鳥類 実施日：平成14年4月26日</p> </div> <p>【ミゾゴイについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月光などによるコンクリート舗装の反射による影響は不明だが、ないと考えられる。 ・平成14年度開始時の調査結果を報告した。 ・調査方法について場所毎の指導を受けた。 <p>※その後、ミゾゴイの調査に関しては下記のとおり打合せを実施し、調査結果の確認及び今後の調査方法、営巣に関する情報等について助言をいただきながら進めているところである。</p> <p>打合せ実施日：平成14年5月、平成14年5月22日、平成14年5月23日、平成14年10月22日、平成15年2月28日、平成15年3月3日、平成16年6月3日</p> <div data-bbox="667 963 1751 1066" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：鳥類 実施日：平成14年7月1日、7月22日</p> </div> <p>【ミゾゴイについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年5月までの調査結果について打合せを行った。 ・営巣地の確認方法、現地調査方法について指導を受けた。 <div data-bbox="667 1199 1751 1302" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：鳥類 実施日：平成14年7月18日</p> </div> <p>【ミゾゴイについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度6月～7月中旬までの調査結果の報告と7月中の調査方法について打合せを行った。 	

6. 動物・植物・生態系

事 項	要 点	備 考
	<div data-bbox="670 302 1748 405" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：鳥類 実施日：平成18年8月9日</p> </div> <p>【ミゾゴイについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ██████████ で確認された個体は、10年近く連続して確認されていることやソングポストが昨年までの場所から少し移動していること等から、世代の入れ替わりの可能性が考えられる。また、 ██████████ 周辺と ██████████ 周辺で鳴き声が確認されたものは昨年までの確認時期等から別個体と判断することができ、 ██████████ 周辺で鳴いていた個体は今年度新たに渡来している可能性が高いと考えられる。 ・ 対象地域周辺では連続してミゾゴイの渡来が確認されており、対象地域周辺はミゾゴイの生息場所として良い環境が維持されていることから、トンネル等の工場の影響は軽微であったといえる。 ・ 環境によって産卵数に差が出ることから、卵数2個というのは不思議なことではなく、それよりも2羽とも無事に巣立ったことが重要である。8月8日の時点で幼鳥は2羽とも巣内から出ており、枝渡りと思われる行動が確認されたが、幼鳥が完全に巣から離れるのは、あと1週間前後であると思われる。したがって、糞・ペリットの採取は幼鳥が巣から離れる前に早めに行ったほうが良い。(特にペリットは劣化が早い) ・ 幼鳥は巣立った後もしばらくは巣の周辺をねぐらとするため、ねぐらを特定できれば糞やペリットを採取したほうが良い。幼鳥は行動範囲もそれほど広くないことから、採餌場所についてもある程度特定できると考えられる。 ・ 湛水域を採餌場所として利用している可能性があることから、来年度以降はダム完成後に湛水すると思われる場所でのミゾゴイの採餌利用について調査することを提案された。また、調査を行う際には時期的な利用状況の変化について把握できるようにすることが重要である。 <div data-bbox="670 858 1748 961" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：鳥類 実施日：平成18年11月1日</p> </div> <p>【鳥類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ササゴイは昔、 ██████████ 付近に生息していた。 ・ ミサゴは事業実施区域周辺に昔は生息していた。犀川ダムや平沢川砂防堰堤の湛水池で採餌していると考えられる。 ・ クマタカは ██████████ 地区から ██████████ 付近で確認した。 <p>【鳥類への影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダム本体よりも付帯する道路工事(新設・拡幅)の方が影響は大きい。それは、道路の新設により生態系が分断されたり、人が進入しやすくなることにより、鳥類の営巣地へ近寄り易くなるためである。 ・ 希少猛禽類だけでなく一般鳥類についても繁殖に配慮して欲しい。 ・ 事業実施に際しては、極力生態系への影響が少ない方法で実施することが望ましい。 <p>(3) 両生類・爬虫類</p> <div data-bbox="670 1386 1748 1488" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：両生類・爬虫類 実施日：平成10年8月</p> </div> <p>【両生類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の調査方法聞き取りと現地調査の指導、同定等の依頼をお願いした。 <p>【爬虫類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の調査方法聞き取りと現地調査の指導、同定等の依頼をお願いした。 	

6. 動物・植物・生態系

事 項	要 点	備 考
	<p>対象者：[REDACTED] 対象項目：両生類・爬虫類 実施日：平成 18 年 10 月 27 日</p> <p>【両生類・爬虫類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犀川のような河川に関わりの深い種としては、カジカガエルがあげられるが、カジカガエルは事業実施区域よりも上流に多く生息する。 ・犀川大橋付近で確認されたナガレヒキガエルは、上流から流れてきたものと考えられる。 ・その他、流水に生息する種として、ナガレタゴガエルは犀川上流では生息が確認されておらず、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオは本川でなく、沢のような環境に生息する。 <p>【両生類・爬虫類への影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両生類、爬虫類については影響は小さいと思われる。 <p>(4) 昆虫類</p> <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：昆虫類 実施日：平成 10 年 9 月 3 日</p> <p>【ヒゲナガホラヒラタゴミムシについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の届かない深い穴に生息する（おおむね抗口から 50m 程度）。 ・洞窟に生息するコウモリの糞に集まる微生物などを採食している可能性がある。 ・行動期については、3 月末～12 月程度であり、1 月～3 月中旬まで越冬すると考えられる。（夏頃から新成虫が確認される可能性がある）。 <p>【調査地点の条件について】</p> <p>現在確認されている地点の地層状況が軽石質および軽石を含む凝灰岩において確認されていることから調査地点については、この地層が分布している洞窟を中心に調査を行うこととする。</p> <p>また、光が全く差し込むことがない洞窟であり、延長の長い洞窟を中心に調査を行うこととする。</p> <p>【調査地点の選定】</p> <p>調査地点の条件と金沢の石切り（石切り緊急調査）の資料から、以下に示す 3 箇所において調査を行うこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [REDACTED] ・ [REDACTED] ・ [REDACTED] <p>対象者：[REDACTED] 対象項目：昆虫類 実施日：平成 10 年 11 月 8 日</p> <p>【ヒゲナガホラヒラタゴミムシについて】</p> <p>調査地点状況の確認、ご指導をお願いした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラップによる採取は、12 月中旬ぐらいまででよい。 ・トラップの確認は、2 週間に 1 回でもよい。 ・ [REDACTED] は洞窟が浅く、ヒゲナガホラヒラタゴミムシは採取できないと思われる。 	<p>※このときのダム計画は水貯めダムであったため、常時満水位以下は常に湛水するというのを念頭に置いたコメントである。</p>

6. 動物・植物・生態系

事 項	要 点	備 考
	<div data-bbox="667 304 1748 436" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象者： [REDACTED] 対象項目：昆虫類 実施日：平成12年2月10日（調査後）</p> </div> <p>【昆虫類重要種（ヒゲナガホラヒラタゴミムシ）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期、第2期調査結果とダム建設に伴う影響について検討し、保全対策（案）を作成するために、学識経験者との打合せを行い、指導を受けた。 <p>【ヒゲナガホラヒラタゴミムシの保全対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム建設に伴い、ダム貯水池の水位変動により、洞窟が水没もしくは一部水没することとなる。このために、ヒゲナガホラヒラタゴミムシなどの洞窟性昆虫類の生息環境を保全方法について検討した。 <p>①新規坑道の設置による生息環境の維持の検討 [REDACTED]、[REDACTED]において、水位上昇による影響を受けない標高まで掘り進め坑道を確保する。</p> <p>②保全対象種の生息環境を調査し、生息環境に応じた場所への移動を行うことの検討 [REDACTED]において、水位上昇による影響を受けない標高まで掘り進め坑道を確保する。または、生息環境に応じた場所への移動を行うことの検討をする。</p> <div data-bbox="667 730 1748 835" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象者： [REDACTED] 対象項目：昆虫類 実施日：平成12年4月</p> </div> <p>【昆虫類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査の指導、同定等の依頼をお願いした。 <div data-bbox="667 934 1748 1039" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象者： [REDACTED] 対象項目：昆虫類 実施日：平成18年12月26日</p> </div> <p>【昆虫類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地確認種は概ね里山に生息する種が確認されており、事業による影響は小さいと総括される。 ・重要種として <i>Monopadnus nigritaris</i>（ハバチの一種）と洞窟内で確認されたケブカツヤオオアリがあげられる。 <p>【ヒゲナガホラヒラタゴミムシの保全対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種族全体には影響は小さいと考えられる。 ・水没する場所の個体については、移動を実施してはどうか。また、その際は移動先のキャパシティーを考慮する必要がある。 ・餌の可能性としてカマドウマが考えられ、カマドウマはコウモリの糞の多いところに多い傾向が見受けられることから、移動先としてはこのような環境の場所がのぞまれる。 ・移動先のキャパシティーの問題があるため、上記の環境以外にも移動を試みてはどうか。 ・移動は新成虫が発生する前の春季がよいのではないか。 <p>(5) 魚類・底生動物</p> <div data-bbox="667 1459 1748 1564" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象者： [REDACTED] 対象項目：魚介類 実施日：平成10年8月</p> </div> <p>【魚介類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の調査方法聞き取りと現地調査の指導、同定等の依頼をお願いした。 <div data-bbox="667 1663 1748 1768" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>対象者： [REDACTED] 対象項目：底生動物 実施日：平成10年8月</p> </div> <p>【底生動物について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査の指導、同定等の依頼をお願いした。 	

6. 動物・植物・生態系

事 項	要 点	備 考
	<div data-bbox="670 302 1748 405" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：魚類・底生動物 実施日：平成18年10月26日</p> </div> <p>【魚類・底生動物について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムサイト付近では以前、アカザが多く生息していた。少なくなったのは水量が少なくなり、細かい粒子の砂が堆積し、アカザの生息に適さない環境となったためと考えられる。 ・重要種のうち、メダカ、モノアラガイ、オグマサナエは、犀川のような河川に生息する種でないため、周辺の水田等から流れてきたものと考えられる。 ・カワヨシノボリは ██████████にも多く生息している。 ・左岸支川（相合谷）での既往の調査は存在しない。 <p>【魚類・底生動物への影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注目すべき種は、アカザとスナヤツメである。 ・アカザについては、維持流量分だけ流量が増加するため、細かい砂が流出し、より適した環境となることが期待できる。 <p>【魚類・底生動物の保全対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、アカザなど魚類の生息についてモニタリングを実施して欲しい。 <div data-bbox="670 827 1748 930" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：底生動物 実施日：平成18年11月1日</p> </div> <p>【魚類・底生動物について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地は山地溪流型の種が豊富であり、他の北陸の河川と比しても種類数が多い。 <p>【底生動物への影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概ね影響は小さいと思われる。 ・オグマサナエについては成虫の生態がわからないと判断できない。また、追加調査も検討する。 ・モノアラガイについては比較的水の汚いところでも増えている事例があるため、影響はないと考えられる。 <p>(6) 植 物</p> <div data-bbox="670 1224 1748 1327" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：植物 実施：「加賀 辰巳用水東岩隧道とその周辺」（加賀辰巳用水東岩隧道周辺調査団 平成元年）</p> </div> <p>【植物について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辰巳ダムが完成した場合、常時満水位（※）以下にあつて、水没する植物は多いが、同種の植物や同質の植生は、この付近や上流にも見出されるので絶滅するというものではない。 ・幾種かの貴重植物が含まれているが、特に本県において希少な存在となっているのは、イブキシダとカリガネソウである。イブキシダは県内ではこの地域と山中町に知られている。暖地性のシダで、西日本では普通である。カリガネソウの産地は本県で希である。犀川では両種の大部分が常時満水位以上の ██████████に生育し、水没地域内には極僅かな個体数である。このほか県内に比較的少ないものに、ヒメザゼンソウ、コンロンソウ、ハルユキノシタ、能登にはやや普通で加賀に比較的少ないオオバノハチジョウシダ、オオヒメワラビモドキ、コモチシダ、バイカウツギ、ナラガシワなどがある。 <div data-bbox="670 1621 1748 1724" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：植物 実施日：平成18年10月6日</p> </div> <p>【植物への影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な植物への影響については、①広く周辺に分布していること、②影響が辰巳ダム工事実施区域と限定されること、③湛水しないこと、から長期的に植生の再生が図られると考えられるため、影響は小さいと考えられる。 <p>【植物の保全対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配慮事項、保全措置としては、移植はあまり好ましくなく、生育環境の保全・復元を図ることが望ましい。 ・以上のようなご意見であったため、石川県として今後、工事期間中に試験的に重要な種の生育環境の復元を試みることを提案し、賛同を得る。 	

6. 動物・植物・生態系

事 項	要 点	備 考
	<div data-bbox="667 302 1751 405" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：植物 実施日：平成18年12月26日</p> </div> <p>【植物への影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・影響評価については妥当である。 <p>【植物の保全対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植した場合には数年管理が必要である。 ・コモチシダ、ミツデウラボシ、イブキシダ、アズマシロカネソウ、コンロンソウは移植が難しい。 ・移植の難しい種は試験湛水による個体の消失の危険性よりも、移植（の失敗）による危険性が高いので、あまり勧められない。もし、実施するのであれば、移植実験を行ってはどうか。 ・生育環境の創出は、現在生育している環境を参考にすればよい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験湛水による植生の変化をモニタリングしてはどうか。 <p>(7) 付着藻類</p> <div data-bbox="667 827 1751 930" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：付着藻類 実施日：平成12年8月</p> </div> <p>【付着藻類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査の指導、同定等の依頼をお願いした。 <div data-bbox="667 1031 1751 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：付着藻類 実施日：平成18年11月24日</p> </div> <p>【付着藻類について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好清水性種や広適応性種である珪藻類が主要な構成種であり、水はきれいな状態であると言える。 ・確認された種のうち、他に注目すべき種は見あたらない。 <p>【調査方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査地点も範囲をまんべんなく網羅しており、調査時期も適切である。十分な調査が実施されたといえる。 <p>【付着藻類への影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付着藻類については影響は小さいと思われる。 <p>(8) 生態系</p> <div data-bbox="667 1493 1751 1596" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>対象者： ██████████ 対象項目：生態系 実施日：平成14年3月7日</p> </div> <p>【生態系について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上位性、典型性、特殊性の観点から評価すること、辰巳独自のコメントを入れた一般的なフロー図を作成することなど、これまでの例に従ったものを用意し、これをこれをたたき台にして検討委員会で議論するべき。討議して加筆、訂正をしていけばよい。議論するだけの調査資料は揃っている。 <p>【保全対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植できるものは移植を行い、または類似環境が他にあることを示す。 ・鳥類などについては周辺地域に生息環境を再生することを検討。 ・新たな生息環境を作ること（再生）は説得力が増す。 	